

MILAN DESIGN WEEK 2024

「パラドックスを両立させるデザインの力」

内と外、パブリックとプライベート、
伝統と革新、過去と現在そして未来へ

取材・文 浦田薫(デザインジャーナリスト)

ミラノサローネの発展と進化

第62回ミラノサローネ国際家具見本市には、世界中から37万人を超える来場者が訪れた。前年に比べて業界関係者数28.6%増、来場者数20.2%増、隔年で開催されるキッチンとバスルームの展示(エウロクチーナ/FTK テクノロジー・フォー・ザ・キッチン、サローネ国際バスルーム見本市)があった2022年比11万人増という記録を更新した。経済社会が閉塞感を抱えながらも、サローネサテリテ参加デザイナーも含めると、出展数は35カ国から1950組。トレード業界の国別ランクでは、中国をトップに、ドイツ、スペイン、ブラジル、フランス、アメリカが続く。日本は15位であった。ミラノサローネ代表のマリア・ポッコは、「ミラノサローネ国際家具見本市は、世界でも唯一無二のイベントであり、市場の新しい領域との対話に不可欠な架け橋であることを再確認しました。イノベーションに開かれた大陸間都市は、国内外経済の主要部門の競争力を加速・強化させています。まさに永続的な価値、製品と雇用、物質と非物質といった文化の偉大な『工場』なのです」とコメントした。

35歳以下の若手デザイナーが展示するサローネサテリテは、マルヴァ・グリフィン・ウィルシャーが創設して以来、今日までに1万4000

人を超える若い才能に焦点を当ててきた。今年は、22カ国から600人を超える若手デザイナーと13カ国から22の教育機関が参加。25周年に伴って、ミラノトリエンナーレでは特別展が開催された。デザインの歴史を刻んできたブランドと並んで若手デザイナーに発表の機会を提供してきたサローネサテリテ。思考やヒューマンネットワークの構築、プロジェクトを育むトレーニングの場として機能すると共に、

第62回ミラノサローネのキーワードとなる「進化」の価値を改めて確認する契機につながったと言える。

キッチンとバスルームについての展示も展開された本年は、気候変動による自然環境やエネルギーへの配慮も継続的になされ、節水やフードロス対策への取り組みについて考えるトークプログラムやプレゼンテーションも活発に行われた。

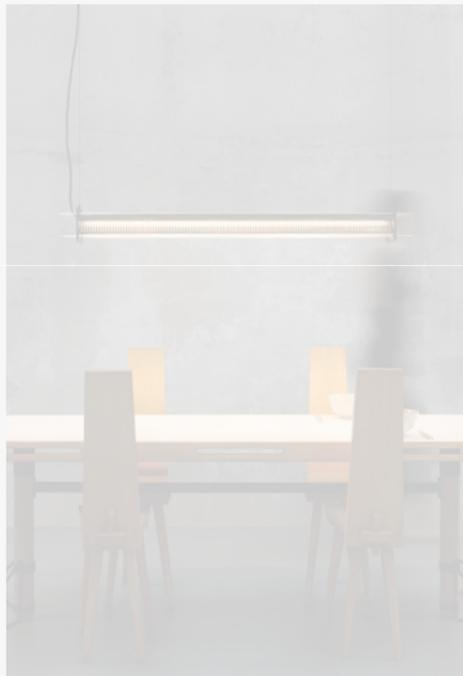


ミラノサローネ国際家具見本市会場(撮影/Romano Dubbini 提供/Salone del Mobile.Milano)



Emeco **

第二次世界大戦の真っただ中の1944年、アメリカ海軍は軽量で非腐食性、耐火性、そして耐魚雷性を備えたイスを発注した。Emecoがその課題に挑戦し、「1006 Navy Chair」が誕生。リサイクルアルミニウムを全体の80%に使用し、独自の7段階のプロセスを経て手づくりされており、150年間の耐久性が保証されている。今年で創業80周年を迎えたことを記念し、「Emeco to Emeco」展をミラノ・トリエンナーレで開催。展示アートディレクションをデザイナーのジャスパー・モリソンが手掛けた(撮影/Miro Zagnoli)



Sammode **

1967年に製造された筒状の照明器具で知られるフランスの照明器具メーカーSammode。新作は、四角い断面を備える「Quadratube」で、建築家兼インテリアデザイナーのジャン・ミッシェル・ヴィルモットとコラボレーションしたもの。サイズに応じてガラスもしくはアクリル樹脂(PMMA)のボディで、サスペンション式と2通りのウォールタイプで提供され、素材や仕上げの質感、カラーなど18種類以上から選ぶことができる(撮影/Morgane Le Gall)

Neutra **

Neutraは、大理石と天然石の供給と加工を専門とする、140年の歴史を誇るイタリアの企業。ミニマリストで厳格なスタイルの家具製造におけるノウハウで高く評価されている。モジュール式のローテーブル「MICELO」は、キノコの栄養構造に由来した名称で、二つの異なる彫刻のような大理石の立体を無限に連結していくことで、有機的な風景を表現している。デザインは、スイスのデザインスタジオ Atelier Oi (提供/Neutra)



Danto **

兵庫・淡路島を拠点に、約150年間タイルの製造を続けてきたタイルメーカー・ダントーの展示。多様な産地の土を使い分けるバリエーションが強みで、本展では、建材としてのこれからのスタンダードを目指した70色のタイル「Alternative Artefacts Danto」を発表した。マテリアルの開発や会場構成は、Teruhiro Yanagihara Studioと協働。会場である、8世紀に建てられた空間と対話をするように展示が展開された。また会場では、フランスを拠点とするIndia Mahdavi (インディア・マダヴィ)とのコラボレーションも発表された(撮影/Felix Speller)

